

専門実践教育訓練明示書

講座の名称	助産学専攻科		
実施方法	① 通学 (昼間・夜間・土日) ② 通信 スクーリング(回数 回)		
指定講座番号	O810016	-	2010011 - 6
講座の創設年月日 平成26年4月1日 (講座指定 : 令和5年4月1日)	専門実践教育訓練給付金 対象講座の指定期間 令和8年3月31日まで	過去一 年の講 座実績	入講者数(10人) 修了者数 (10人)
訓練期間	12ヶ月	総訓練時間	1095時間
1. 教育訓練目標			
①取得目標とする資格の名称、目標レベル	<input checked="" type="checkbox"/> 業務独占資格・名称独占資格 (助産師) <input type="checkbox"/> 職業実践専門課程 () <input type="checkbox"/> キャリア形成促進プログラム () <input type="checkbox"/> 専門職大学院 () <input type="checkbox"/> 職業実践力育成プログラム () <input type="checkbox"/> 情報通信技術関係資格 () <input type="checkbox"/> 第四次産業革命スキル習得講座 () <input type="checkbox"/> 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科 () 教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等 ・受胎調節実地指導員の申請資格 ・新生児蘇生法専門コース修了認定の申請資格		
②①に係る資格・試験等の実施機関名称	厚生労働省		
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等	本学に1年間以上在籍し、修了単位(35単位以上)を修得したことにより修了が認定されること。		
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・職務及び習得された技能・知識が活用されている業界と活用状況	助産師、看護師、保健師等。 病院・診療所の産婦人科や地域の保健所、母子保健センター等で助産師や相談員として活用。助産所を開業することも可能。		
2. 教育訓練の内容			
教科 (カリキュラム)	時間	使用教材名	
助産学概論	15	助産学講座1 助産学概論 第5版	
家族発達援助論	15	指定教科書なし	
周産期学 I	30	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版 標準産婦人科学第4版	
周産期学 II	30	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版 標準産婦人科学第4版	
新生児学	30	助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版 新生児学入門第5版 助産学講座10 助産管理 第5版 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト	
助産診断・技術学 I	60	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版 実践マタニティ診断 第4版 標準産婦人科学第4版 新生児学入門第5版	
助産診断・技術学 II	30	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア	

		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		実践マタニティ診断 第4版
		標準産婦人科学第4版
		新生児学入門第5版
助産診断・技術学Ⅲ	60	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
助産診断・技術学Ⅳ	30	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		標準産婦人科学第4版
ウイメンズ・ヘルスケア	15	助産師基礎教育テキスト 第2巻 ウイメンズヘルスケア
		助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
リプロダクティブ・ヘルスケア	30	助産師基礎教育テキスト 第2巻 ウイメンズヘルスケア
特論：女性と子供の健康と暴力	選択 1 科目 必修	15 フォレンジック看護
特論：不妊症とケア		15 標準産婦人科学第4版
特論：新生児リハビリテーション	15	助産師基礎教育テキスト 第2巻 ウイメンズヘルスケア
地域母子保健Ⅰ		助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版
地域母子保健Ⅱ	30	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版
地域母子保健演習A	選択 30	特に指定なし
地域母子保健演習B		30
助産学演習	30	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		標準産婦人科学第4版
		新生児学入門第5版
		実践マタニティ診断 第4版
助産学実習Ⅰ	180	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		標準産婦人科学第4版
		新生児学入門第5版
助産学実習Ⅱ	180	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		標準産婦人科学第4版

		新生児学入門第5版
助産学実習Ⅲ	180	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア
		助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア
		助産学基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		標準産婦人科学第4版
助産学実習Ⅳ	45	新生児学入門第5版
		助産学基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第5版
		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第5版
		助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第5版
		助産学講座10 助産管理 第5版
助産マネジメント	15	新生児学入門第5版
助産マネジメント実習	45	助産学講座10 助産管理 第5版
助産学研究	30	特に指定なし
		特に指定なし

3. 受講者となるための要件（この講座を受講するために必要とされている条件など）

①受講するに当たって必要な実務経験等	なし
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・技能・知識等の内容及びその水準	大学を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められるものであって、かつ看護師国家試験に合格した者(女性に限る)。
③その他	

〔特記事項〕

--

専門実践教育訓練明示書

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況

(1) 資格取得状況

① 前年度の修了者数	10 人			
② ①に係る教育訓練の入講者数	10 人			
③ ②のうち目標資格の受験者数	10 人	受験率(③/②)	100.0	%
④ ③のうち合格者数	10 人	合格率(④/③)	100.0	%
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1	10 人			
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	0 人	就職・在職率(⑤+⑥/②)	100.0	%

※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。

この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。

※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。

(2) 受講修了者による講座の評価等

① 回答者総数		10 人		
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	0 人	②A: 就業者計	0
	2 非正社員、派遣社員	0 人		
	3 その他の就業(自営業等)	0 人		
	4 非就業	10 人		
③ 就業中の受講者による講座の評価	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下)	0
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	人		
	3 社内外の評価が高まる	人		
	4 円滑な転職に役立つ	人		
	5 趣味・教養に役立つ	人		
	6 その他の効果	人		
	7 特に効果はない	人		
④ 就業していない受講者による講座の評価	1 早期に就職できる	人	④の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	10
	2 希望の職種・業界で就職できる	8 人		
	3 より良い条件(賃金等)で就職できる	2 人		
	4 趣味・教養に役立つ	人		
	5 その他の効果	人		
	6 特に効果はない	人		
⑤ 受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	10 人	⑤の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	10
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	人		
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	人		
	4 就職していない	人		
⑥ 講座の全体評価	1 大変満足	6 人	⑥の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下)	10
	2 おおむね満足	3 人		
	3 どちらとも言えない	1 人		
	4 やや不満	人		
	5 大いに不満	人		

(3) 受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価等)

5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法

1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	カリキュラムの進行に応じて、小テストやレポート作成を実施し、習得度を確認している。必要に応じて、担当教員が弱点補強指導を行っている。
(通信制講座の場合) スクーリングの実施場所、時期、期間・回数	

専門実践教育訓練明示書

6. 受講効果の把握方法			
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験、進級試験等の具体的基準)	各科目の出席率が講義科目は2/3以上、演習・実習科目は4/5以上。 前期・後期(6か月ごと)の定期試験において60点以上の得点の者に対して単位を認定する。(助産学専攻科履修規程第6条、同7条)		
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	カリキュラムの進行に応じて、小テストやレポート作成を実施し、習得度を確認している。 必要に応じて、担当教員が弱点補強指導を行っている。		
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)	本学に1年間以上在籍し、修了単位(35単位以上)を修得した者(学則第53条)		
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	カリキュラムの進行に応じて、小テストやレポート作成を実施し、習得度を確認している。 必要に応じて、担当教員が弱点補強指導を行っている。		
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法	成績が低位の者に対して個別指導を行っている。 また、学生の希望に応じて個別指導を行っている。		
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例：資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	就職を支援する「キャリア支援センター」に専任の相談員を配置し、随時相談を受けている。		
8. その他の事項			
指定教育訓練実施者名及び代表者名	茨城県		(代表者名 茨城県知事 大井川 和彦)
住所及び連絡先	茨城県水戸市笠原町978番6	TEL	029-301-1111
施設名称及び施設長名	茨城県立医療大学	(施設長:	学長 松村 明)
住所及び連絡先	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669番2	TEL	029-888-4000
苦情受付者	氏名 岡本 博 所属 教務課	事務担当者	氏名 古澤 翔 所属 教務課
連絡先	TEL 029-840-2111	連絡先	TEL 029-840-2111
専門実践教育訓練経費	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②) 874,200 円 (茨城県内の者は、705,000 円)		
支払い方法	① 一括払	① 入 学 料 (税 込 額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)	338,400 円 (茨城県内の者は、169,200円)
	② 分割払	② 受 講 料 (税 込 額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)	535,800 円 第1期 267,900 円 第2期 267,900 円 第3期 円 第4期 円 第5期 円 第6期 円 (うち、必須教材費 0 円)
③ 両方可能	2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④) 263,100円		
	① 任意の教材費(税込額)	※市販の教科書は任意の教材費で区分されます。	0 円
	② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)		220,000 円
	③ 施設維持費(税込額)		0 円
	④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)		43,100 円
	3. 総額 (1+2) (税込額) 1,137,300 円 (茨城県内の者は968,100円)		